

## 1. 教育目標

人間尊重の精神を基盤に、心豊かで自立した人間を育てるとともに、将来幅広く音楽専門家として活躍し、文化の発展に貢献できる人を育成する。

教育目標の達成のために、生徒ひとりひとりの実技力・学力・人間力の3つの力をバランスよく育成し、それらが重ね合わされた音楽力を高める教育を行う。

実技力…音楽の世界で飛躍するために必要な感性と技術、ソルフェージュの力、音楽史や音楽理論などの専門的な知識

学 力…これからの社会で生きていくための基礎知識・技能、自らの考えや意見を他者に伝えることのできることばの力、進路実現に向けた確かな学力

人間力…謙虚に学び続ける姿勢、音楽を通して何がしたいか、何ができるかを考え、行動できる力、濃密な想像力をもって他者を思いやることのできる力

### ① 実技力のさらなる進化を希求する生徒の育成

- ・将来、音楽専門家として活躍するために必要な基礎力をすべての生徒が培い、その上に自らの専門性を高め、国内外のさまざまな音楽シーンをリードする音楽家の育成を目指す。
- ・音楽を通してのキャリア教育を意識するとともに、それぞれの授業における評価を明確にし、生徒自身が自らの目標を高く掲げ、その実現に向けて自発的に音楽に取り組み、自己調整していく力を育てる。

### ② これからの時代の中で、自己実現に向かうことのできる学力を持つ生徒の育成

- ・生徒が自らを社会の中で生かし、日本をはじめ広く世界で社会に貢献するための基礎となる教養を醸成する。
- ・主体的で対話的な深い学びを実現する授業等を通して、学びを生徒自らが獲得していけるよう工夫する。
- ・授業の目的・目標を明確にし、校内外の指標や評価を積極的に求め、常に授業改善に努め、進路実現にも対応できるよう、授業の質を高める。

### ③ 心豊かな音楽人の育成

- ・教育活動のすべての場面を、生徒自らが豊かな感性・情操を培う機会と捉える。
- ・音楽が自他や社会に影響を与え、豊かな人間、よりよい社会の実現に寄与できるといった、音楽の力に生徒が気づき、その発信者となれるよう働きかける。
- ・生徒が世界の中の京都の文化的な風土・特性を十分に理解し、伝統の上に立ちながら、自らが独自の音楽を創造していく気概を持てるような機会を作る。

## 2. 学校経営方針

○教職員が互いに敬い合い、適切な「相互依存」の形を追究しながら、教育活動を推進する。

○全ての教育活動において目標の設定と必要な情報の共有を行い、協同・連携を促進することで、効率的・効果的に業務を遂行する。

○ひとりひとりが、特長ある「公立高校唯一の音楽高校」における学校経営への参画の意識を持って、日々自身の専門性の研鑽と幅広い教養の獲得に努める。

## 3. 重点課題

◎新教育課程での教育活動の充実

◎「人が人と学ぶ」学校のための、ICTを活用する教育活動の展開

◎「堀音」の良さの確認と見せ方の検討

◎効率的・効果的な働きかたと財政運営の促進